

《立教戦・戦績》

**ランを封じ込められるも、勝利
二次リーグ進出決定**

日大VS慶應戦を見終えての試合開始。多くの観客が慶應には負けることはないだろうと思っていた日大が、1点差で敗北。勝負の神様は慶應に微笑み、「なぜ明治はあの日…」と複雑な感情が再燃したのでは。
「勝負はやってみなければ分からない」、を実証した試合結果だった。4Q、慶應の気迫、チーム全体の勢いが、日大を圧倒していた。

左記スタッツを参照して頂けると一目瞭然。ラン獲得ヤード数79。平均獲得ヤード3。慶應戦の平均は6.7。これだけランを封じ込められている状況下、よくぞパスを通して勝ち抜いた！と称賛する一方で、精彩を欠いた試合展開だったことは否めない。

春の戦績、秋の立教大学をスカウティングする中で、「勝てる」という前提で戦略を立てていたのか…。観客は知る由もないが、明らかに慶應戦とは違う戦略で挑んだ結果が左記に現れている。追い込まれた状況で勝てるチカラがあることを証明した試合だった。

*法政に勝つと1位通過で2次リーグに進出となる。しかし、負けると2位（日大が立教に負ける）か3位（日大が立教に勝つ）

	1Q	2Q	3Q	4Q
明治大学	0	7	0	7
立教大学	0	0	7	0

	明治大学	慶應大学
パス 獲得ヤード	160	149
ラン 回数/獲得ヤード	31/208	27/84
攻撃 回数/獲得ヤード	53/368	61/233
	明治大学	立教大学
パス 獲得ヤード	247	85
ラン 回数/獲得ヤード	26/79	31/122
攻撃 回数/獲得ヤード	57/326	50/207

法政戦みどころ #7星野凌太郎をどう封じ込めるか

前節、立教戦で11回キャリア151ヤード獲得。平均獲得ヤードは13.7ヤード。55ヤードのロングラン。驚異の記録をはじき出した#7星野凌太郎。星野の走路をOL,WRはじめ、全員が分かっているかのような素晴らしいブロッキング。それを最大限に活かし駆け抜ける。ランが出ると#4平井将貴のパスが通る。#11WR高津佐隼世は、1年生ながら抜群のセンス。#87TE井上遼大へのパス、#7星野へのパスも通り始めると、的が絞れず非常に厄介。

グリフィンズディフェンスは、星野へのタックルミスは許されないのはもちろん、ブロッカーも一撃で倒さなければならない。法政#69柳沢佳祐・身長190cm、135kgと巨大OLを中心としたOL陣を破壊するには、グリフィンズDL陣のスピードと踏ん張りが、星野を止め、平井に投げさせない鍵となる。

キッキングでも星野は、ブロックを使い走路を見つけリターンしてくる。グリフィンズのカバーに少しでも隙があれば、リターンタッチダウンになってしまう可能性が十分ある。ここでも星野のランをとめなければならない。逆にグリフィンズも#6森川をはじめとするリターナーが敵陣まで攻め込むほどのリターンを期待する

グリフィンズのオフenseは、全員が臆することなく、どんなピンチでも互いを鼓舞し、果敢に攻める。守りに入った瞬間、勝機を確実に逸する。4thDownギャンブル含め、攻撃は最大の防御を体現して欲しい。手に入ったボールは絶対落とさず、1ミリでも前に。

一意専心